

# 記 入 上 の 注 意 事 項

## 1 個人調書

- (1) 記載するすべての年月日は元号とすること。
- (2) 「生年月日（年齢）」欄の年齢については、平成 25 年 4 月時点での満年齢を記入すること。
- (3) 「学歴」の欄には、大学もしくは高等専門学校またはこれらと同等以上と認められる学校卒業以上の学歴を有する者は、これらの学歴のすべてについて記入し、その他の者は最終学歴について記入すること。なお、学位、称号や資格等についても同欄に記入すること。
- (4) 「職歴」の欄には、職歴のすべてについて記入し、職名、地位等についても明記すること。また、過去における教員組織審査において教員の資格があると認められた場合には、当該審査に係る時期、大学の名称、職位及び担当授業科目の名称（大学院にあっては、判定結果を含む。）を記入すること。過去における高等専門学校の教員資格の認定を受けた場合には、当該認定に係る時期、高等専門学校の名称、職位及び担当授業お科目の名称を記入すること。
- (5) 「学会及び社会における活動等」の欄には、本人の専攻、研究分野等に関連した事項について記入すること。また、研究教育上の業績を有する場合は、その内容を具体的に記入すること。
- (6) 「職務の状況」の欄には、記入日現在における職務の状況について記入すること。「勤務状況」の欄には、各授業科目を記入すること。
- (7) 教員以外の方の場合「勤務の状況」の欄については、「勤務先」、「職名」欄のみを記入するとともに、現在の職務内容を「備考」の欄に簡潔に記入すること。

## 2 教育研究業績書

- (1) 「研究分野」及び「研究内容のキーワード」  
「研究分野」の欄には、科学研究費補助金の「系・分野・分科・細目表」の分科レベルの名称を用いて、研究分野の主なものを 3 つ以内で記入すること。「研究内容のキーワード」の欄には、研究内容を表すキーワードを 5 つ以内で記入すること。なお、分科レベルに該当がない場合は、適宜記入すること。
- (2) 「教育上の能力に関する事項」（「なし」の場合は「なし」と記入）
  - ① 教育方法の実践例  
優れた教育方法の実践例、マルチメディア機器を活用した授業方法、学生の授業外における学習促進のための取り組み、講義内容の Web 上での公開等を記入すること。
  - ② 作成した教科書・教材（「なし」の場合は「なし」と記入）  
作成した教科書、教材、講義で教科書として使用している著書、教材等の概要を記入すること。（後欄の「著書、学術論文」と重複も可。その場合、（再掲）と表示すること。）
  - ③ 教育上の能力に関する大学等の評価（「なし」の場合は「なし」と記入）  
採用決定の際等における評価内容や、各大学における自己点検・評価での評価結果、学生による授業評価、教員による相互評価等の結果等について記入すること。
  - ④ 実務の経験を有する者についての特記事項  
大学から受け入れた実習生等に対する指導や、訴訟・審判・監査・与信・企業提携・研究開発等の専門的な実務に関する教育・研修や大学の公開講座、社会教育講座における講師、シンポジウムにおける講演等を記入すること。
  - ⑤ その他  
大学教育に関する団体等における活動や教育実績に対する表彰等、国家試験問題の作成等、

競争的外部資金獲得状況や受託研究など、①、②、③及び④に該当するもの以外の事項について幅広く記入すること。

(3) 「職務上の実績に関する事項」

① 資格、免許

医師、歯科医師、薬剤師、看護師、教員等の資格で研究や教育に関連するものについて記入すること。

② 特許等

特許、実用新案等で教育や研究に関連するものについて記入すること。

③ 実務の経験を有する者についての特記事項

実務経験の記入方法については、「職歴」欄に記入した事項を中心に、下記ア)～ウ)について記入すること。

ア) 従事した期間

イ) 職務の内容（どのような職務に就いて、どのような役割を果たしたか）

ウ) 成果・結果。

● 企業、官公庁等の研究者の場合

➤ 開発した新製品・製法、作物等の新品種などの概要

➤ 大学等の共同研究による研究実績がある場合、その概要、成果、当該研究者の役割

● その他、企業・団体等関係者の場合

➤ 国際援助・開発、先端技術、国際金融等高度に専門的な実務に従事した実績

● 情報技術関係者の場合

➤ コンピュータに係る職務歴（職務上のコンピュータ活用法、ソフト・システム開発歴）

● マスコミ関係者の場合

➤ 執筆した記事の概要

➤ 作成した番組の概要

● 医師や看護師等医療技術者の場合

➤ 症例研究会・ワークショップ等での報告や症例発表等の活動

● 福祉その他社会的活動の関係者の場合

➤ 参加した活動や団体の名称、活動内容・期間、本人の活動における地位

● スポーツ等実技関係者の場合

➤ 指導者としての経歴・実績・資格・選手としての経歴、実績

● その他全般を通じて

➤ 企業内教育・大学公開講座、社会教育講座の講師としての講義内容

④ その他

職能団体等からの実務家としての卓越性に関する評価・推薦等や、論文の引用実績等、上記以外に該当するものの事項を記入すること。

(4) 「研究業績等に関する事項」

① 「研究業績等に関する事項」には、書類作成時において未発表のものは記入しないこと。

② 「著書、学術論文等の名称」の欄については、著書、学術論文及びその他の順に適切に区分し、年月日順（過去→現在）に記入し、区分ごとに通し番号を付して記入すること。

・著書については書名を記入すること。

・学術論文については、国際学術雑誌、学会機関紙、研究報告等に学術論文として発表したものの題名を記入すること。学位論文については、その旨を明記すること。

・その他については、総説、学会抄録、依頼原稿等にあつては当該記事のタイトルを、報告発表、座談会、討論等にあつては当該テーマを記入すること。

- ③ 「単著・共著」の欄には、著書、学術論文等が共著の場合は、当該著書等に記載された著作者が単独である場合には「単著」、著作者が複数いる場合には、監修、編集、編著、共著、部分執筆等の関わり方によらず「共著」と記入すること。
- ④ 「発行又は発表の年月」の欄には、当該著書等の発行又は発表の年月を記入すること。
- ⑤ 「発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称」の欄には、著書については、発行所を記入すること。学術論文等については、発表雑誌等の名称、巻・号、掲載ページ等を記入すること。また、報告発表等の場合には、学会大会名、開催場所等を明記すること。
- ⑥ 「概要」の欄は、200字程度で具体的に記入すること。
- ⑦ 当該著書が共著の場合には、本人の担当部分の章、節、題名、及び掲載ページを明記し、また、本人の氏名（下線を付すこと。）を含め著作者全員の氏名（多数にわたる場合は主要な共著者の氏名）を当該著書、学術論文等に記載された順に記入すること。また、本人担当部分の抽出に困難があるときは、その理由を記入すること。
- ⑧ 査読付きの論文については、題名の後に「（査読付）」と記載してください。

※「個人調書」、「教育研究業績書」は、記入事項の多少に応じて複数枚を作成してかまいません。

【個人調書】

〔学歴〕欄記入例

学歴	
平成□年□月	□□看護学校卒業
平成□年□月	看護師免許（第□□号）
平成□年□月	□□大学□□学部□□学科入学 ※
平成□年□月	□□大学大学院□□研究科□□学専攻（修士課程）入学 ※
平成□年□月	□□大学大学院□□研究科□□学専攻（修士課程）修了 ※
	修士(□□学) (□□大学第□□号) ※
	「修士論文題名：□□□における□□□について」
平成□年□月	□□大学大学院□□研究科□□学専攻（博士課程）入学 ※
平成□年□月	□□国□□大学大学院□□専攻（大学、専攻等の名称を原語で記入）留学 （平成□年□月まで） ※
平成□年□月	□□大学大学院□□研究科□□学専攻（博士課程）単位取得後退学 ※
平成□年□月	博士(□□学) (□□大学第□□号) ※
	「博士論文題名：□□」

※学部学科及び学位、資格の名称は学位記、証明書等を確認し正確に記入してください。

学位は□□博士又は博士(□□学)など、正確に記入してください。

〔職歴〕記入例

職歴	
平成□年□月	□□大学医学部助手（平成□年□月まで）
平成□年□月	□□大学医学部看護学科非常勤講師「□□学」（平成□年□月まで）
平成□年□月	□□国□□研究所（名称の原語を付記）へ派遣留学（□□研究に従事） （平成□年□月まで）
平成□年□月	□□国□□大学客員研究員（名称の原語を記載）（文部省在外研究員） （平成□年□月まで）

〔職歴〕記入例（看護師経歴等）

職歴	
平成□年□月	□□クリニック・パートタイム看護師（平成□年□月まで）
平成□年□月	□□市立□□病院外科病棟看護師（平成□年□月まで）
平成□年□月	□□大学病院□□病棟主任看護師（平成□年□月まで）
平成□年□月	□□国立□□病院□□病棟実習指導者（平成□年□月まで）

〔学会及び社会における活動等〕記入例

学会及び社会における活動等	
現在所属している学会	日本□□学会、北米△△学会
年 月	事 項
平成□年□月	日本□□学会入会（現在に至る）
平成□年□月	北米△△学会入会（現在に至る）
平成□年□月	□□県□□審議会委員（平成□年□月まで）

【教育研究業績書】

「職務上の実績に関する事項」

※「3 実務の経験を有する者についての特記事項」の記入事例

・看護師の場合

事項	年月日	概要
■■病院看護師	平成〇年〇月 ～平成〇年〇月	循環器内科病棟に勤務。 心筋梗塞で緊急入院した CCU 患者の循環状態・呼吸状態の管理、絶対安静の患者の看護、心臓リハビリテーション看護、循環器疾患を管理しながら生活を送る患者のサポート等を行った。

・その他

事項	年月日	概要
〇〇活動の推進	平成〇年〇月 ～現在に至る	〇〇活動を通じて、▲▲県内の市町村 〇■協議会及び関連施設、NPO 団体等と協力し、県内〇〇活動の推進を行うと同時に、〇〇に関するアンケートを実施し、〇〇活動の実態や問題点を把握し、地域社会における動向を調査した。また■■■、◆◆等の様々な講座やワークショップ等の企画や運営を行い、〇〇の必要性を一般市民へ訴える活動を続けている。

（「研究業績等に関する事項」記入例）

著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学術論文) 1. □□□□□□ ①論文集、学術雑誌、学会機関誌、研究報告、紀要等に学術論文として発表したものを記入してください。	単著	平成□年□月	「□□大学紀要」 第□巻第□号 P. □～ P. □	□□□□・・・ (200字程度)
2. □□□□□□	共著	平成□年□月	「□□□学」 第□巻第□号 P. □～ P. □	□□□□・・・ (200字程度) 本人担当部分：□□□□□□□□ 共著者：□□□□ (本人氏名には下線)、 □□□□、純真太郎、□□□

<p>3. □□□□□□ (修士論文)</p>	<p>単 著</p>	<p>学位授与年月</p>	<p>学位授与大学名</p>	<p>□□□□・・・ ( 200 字程度) A□判 全□頁</p>
<p>4. □□□□□□ (査読付き) ※ 査読付きとの注 記は、適宜。</p>	<p>共 著</p>	<p>平成□年□月</p>	<p>□□学会誌「□□ □□」 第□巻第□号 P. □～ P. □</p>	<p>□□□□・・・ ( 200 字程度)  本人担当部分:共同研究につき抽出不可 能 or 例:実験データの分析、専門分野 からのアプローチ等の記入をお願い致し ます。 共著者:□□□□、□□□□、<u>純真太郎</u>、 □□□□、□□□□、□□□□、□□ □</p>
<p>(その他) 「翻 訳」 1. 原著者 邦訳表題 ★「総説」、「学会発表 (学会抄録)」、「依頼 原稿」、「研究報告書」、 「シンポジウム」等を 記載してください。 ★「翻訳」は、原著者 名、邦訳の表題、原語 の表題を記入してく ださい。</p>	<p>共 著</p>	<p>平成□年□月</p>	<p>□□□□出版社</p>	<p>原書名:□□□□□□□□ □□□□・・・ ( 200 字程度)  A□判 全□頁 本人担当部分:□□□□□□□□ P. □～ P. □ 監修:□□□□ 共訳者:□□□□、<u>純真太郎</u>、□□□ □、□□□□</p>
<p>「学会発表」 1. □□□□□□□□  ★口頭の「学会発表」 は、この欄に記入して ください。</p>	<p>共 同</p>	<p>平成□年□月</p>	<p>□□学会第□回大会 (於□□ホール)</p>	<p>□□□□・・・ ( 200 字程度) .....□□□□ 本人担当部分:□□□□□□□□ 共同発表者:<u>純真太郎</u>、□□□□、□ □□□、□□□□、□□□□</p>